

令和5年 川西市図書館協議会

審議報告

テーマ「8つの提言と目指す姿の実現に向けて」

はじめに

当協議会は、平成30年3月31日、審議報告「図書館サービスの向上について」の中で、川西市立中央図書館の現状及び強みと問題点を整理し、サービス向上の具体的方策として8つの提言とその目指す姿を示した。図書館ではその後、それらをもとにサービス向上に努めてきたが、一方で具体的に進んでいない提言の内容も見受けられた。そのような中、令和3年の定期監査において、その点が改善事項として指摘されたことを受け、この数年間の利用や事業内容の分析、提言ひとつひとつの進捗状況を確認し、目指す姿の実現に向けて、協議を重ねることとした。

あらためて、中央図書館が目指す姿とは、次のとおりである。

1. 市内唯一の図書館として、市内全域を対象としたサービス網の中心的役割を担う。
  2. 市民が気軽に立ち寄り、何か（知識や出会い、生きがい）を得られる場所となる。
  3. 他機関や図書館間の広範な連携体制により、多様な資料を提供し市民の学びを支援する。
- 今回の審議報告が「中央図書館が目指す姿」実現への一助となることを願っている。

令和5年6月16日

川西市図書館協議会

1. 図書館の現状について

前回の審議報告から4年が経過している。その間には新型コロナの影響もあり、全国的にも図書館の利用は大きく減少し、また、サービスの方向性も大きく変化している。窓口対応を含め、集会行事やグループ活動など来館を前提としたものから、非来館サービスのひとつとして電子図書館導入が加速した。川西市においては同様の傾向に加え、図書館以外の施設（公民館図書室、団体貸出）での利用、インターネットを介しての利用（ネット予約や電子図書館）が増加している。

(1) 令和3年度の統計をもとにした川西市立中央図書館の利用状況

個人の貸出、来館者数は減少傾向である。令和3年度は少し増加したが、コロナ前までには戻っていない。

令和3年度の予約件数（約148,000件）はこれまでで最多である。ネット予約の割合は年々増加し90%以上を占めている。

公民館図書室への予約配送冊数（約52,000冊）、公民館図書室での貸出冊数（約135,000冊）はこれまでで最多である。

団体貸出はセットパック配送サービスが増加。141団体へ約38,000冊を提供しており、これまでで最多の貸出冊数である。〔注セットパック：利用団体の要望（対象年齢、テーマ、季節など）に応じて司書が選書する〕

60歳以上の利用者割合は、全体の44.8%であり、年々増加している。

電子図書館の利用（令和２年度導入）は増加した。

（２）資料の収集・整理・保存

蔵書冊数は横ばいである。定期的な廃棄作業と図書整理ボランティアの活用等により、書架の整理状況は改善されている。

（３）施設・設備

令和３年度に利用者用エレベーターの改修工事は終了した。今後も老朽化等による改修や故障に対しては、適切な対応が必要である。

２．「中央図書館が目指す姿」を実現するための８つの提言の取り組み状況と意見

**提言１** 探しやすく、見て楽しい魅力ある書架づくり

書架整理ボランティアの協力に加え、書架の増設により、改善されている。

表紙を見せたり、本のポップや紹介文も合わせて展示することで、知的好奇心を刺激できるものと考えますが、スペースにゆとりがなく「見せる」「魅せる」書架にはなっていない。

**【意見】**

- ・川西ゆかりの人物や作家に焦点をあてた内容、また、川西近辺で開催中のイベントと関連性を持たせた内容の展示を積極的に行い、互いに盛り上げるような取り組みを行う。

**提言２** 市民の利便性向上のため、開館時間と開館日数の拡大の検討

開館時間の拡大については、効果に結びつくのかも含め、再考する必要がある。予定されているＩＣタグの導入により、蔵書点検期間の短縮が見込まれ、開館日数の増加は可能である。

**【意見】**

- ・予算や人員体制にも関わるため、時間帯別の利用分析や利用者アンケートなどにより、効果とニーズを把握する必要がある。

**提言３** 現在のサービス充実と更なる向上のための人材確保と専門職の育成

コロナ禍により研修の機会は減っていたが、令和４年以降は司書の研修会は増えている。また、オンライン配信などで、業務の合間に受講し、知識や情報を得る機会も増えている。

しかし、正職員の異動や館全体の職員構成を勘案すると、今後の専門職の育成は難しい局面にある。

**【意見】**

- ・児童や障害者へのサービスでは司書の経験やスキルが必要であるが、現状では特定の職員らに委ねすぎている。今後の育成や引き継ぎの体制を整えていくべきである。
- ・予算や雇用を伴うことであり、川西市として検討すべきである。

**提言４** 図書館の評価と図書館への関心を高める積極的な情報発信

学校司書研修に参加し、相互理解と図書館の活用促進をＰＲしている。一定の成果は認められるものの、中高生などヤングアダルト層に対する発信は不十分である。

【意見】

- ・図書館のホームページへのアクセス分析（どのページを閲覧しているかなど）具体的なPR先と内容の検討を行う。
- ・ホームページに専門図書館などのサイトをリンクさせ、利用者がより広範に情報を得やすいよう工夫を行う。

提言5 学校等との連携強化

教職員のリクエストに応えた団体貸出が増えている。コロナ禍で中止していた出前授業「図書館の学校」も再開している。市内小中学校で配布されたタブレットにより、容易に電子図書館を利用できるようになっており、小中学生の電子図書館利用が増えている。大学や専門機関との連携は、市内に施設が少ないこともあり、取り組みが進んでいない。

【意見】

- ・学校現場での読書時間の確保が以前より難しくなっている。また、連携は進んでいても、図書館と学校が離れている場合は、個人貸出には結びつかない。居住地に近い公民館図書室の利用促進により読書推進を図る検討を行う。
- ・トライやるウィーク等を活用し、生徒を図書館に取り込む参加型の取り組みを進める。
- ・大学、専門機関との連携を再検証し、早期に着手していく。

提言6 全市域にわたる図書館サービス網の構築

図書館と公民館図書室は所管が異なり、図書館のみで公民館図書館の管理運営等について進めることはできない。全市的な公民館のあり方の協議の中で、図書館と公民館図書室との関係性を整理する必要がある。読書活動推進計画には着手できていない。

【意見】

- ・公民館図書室は利用時間が限定的で、利用しづらい面がある。分室化の検討、効率的な管理運営に関しては、やはり市全体で取り組むべき課題である。
- ・長期的な読書活動推進計画は、これからも持続可能な図書館を目指すうえで必要な計画であり、着手していくべきである。

提言7 電子書籍やデジタルアーカイブの導入

電子図書館は令和2年度に導入しており、小中学校と連携し利用促進を図っている。デジタルアーカイブについては、川西市関連資料のデータ提供が少なく、電子図書館への掲載が増えていない。

【意見】

- ・電子図書館の川西市関連資料の充実には、庁内での資料データ提供とPRに努めること。

提言8 図書館の管理運営方法の検討

県内では、約25%の図書館で指定管理者制度が導入されているが、現在は川西市は直営

で運営している。

【意見】

- ・直営を維持するには、正職員と非常勤職員（会計年度任用職員）の人員構成、人材育成を含め、未来に向けて見直しを図る時期に来ている。
- ・民営化に関しては、近隣他市町の状況や動向を分析し研究すること。民営化は数年単位での業者変更により、館の独自性や事業の継続性が損なわれることが懸念されるため、慎重に検討すること。

3. 提言を進めるうえでの課題、解決に要する期間について

2の現状分析を基に各提言の課題解決に向けた仕分けを行い、重要度や緊急性に重点を置き優先順位を協議した（下表参照）。

仕分け方法は、解決する主体と解決に要する期間の2項目とし、解決する主体は、中央図書館で解決できる（すべき）提言、川西市全体で取り組む必要がある提言とに分けた。

解決に要する期間は、短期で解決できる（すべき）提言、長期で取り組むべき提言とに分けた。なお、短期とは概ね単年度とし、解決に複数年度を要する提言は長期とする。

	解決する主体		解決に要する期間		優先順位
	図書館	市	短期	長期	
提言 1					
提言 2					
提言 3					
提言 4					1
提言 5					3
提言 6					2
提言 7					
提言 8					4

優先順位に関しては、協議の結果、令和3年の定期監査で特に改善要望があった提言4、5、8と当協議会で重要との意見があった提言4、6を中心に上表の優先順位とする。

おわりに ～川西市立中央図書館が目指す姿に向けて～

前回の提言から4年が経過している。その間、新型コロナウイルスによる未曾有の社会変動により、これまでのサービスの継続や拡充のみではなく、新規サービスの導入や施設設備の見直しなど、今まで後回しにされてきたことに着手するきっかけとなった。新型コロナウイルスが収束しつつある中、従前の図書館の姿を取り戻しながら、加えてその間に開始したサービスも引き続き充実させていかなければならない。「川西市立中央図書館が目指す姿」の実現に向け努力し、市民の生涯学習を支える施設として、成長し続けることを切に望んでいる。

以 上